

## 諏訪地域の整備方向

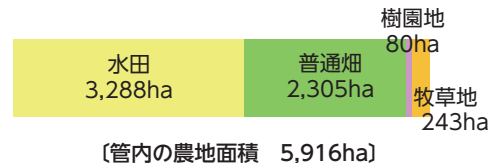
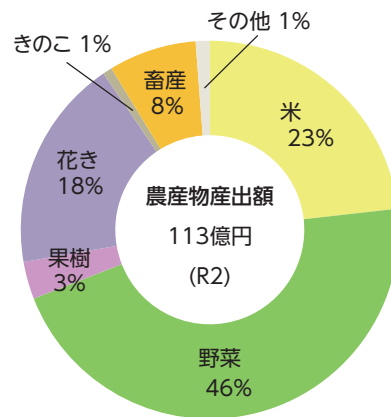
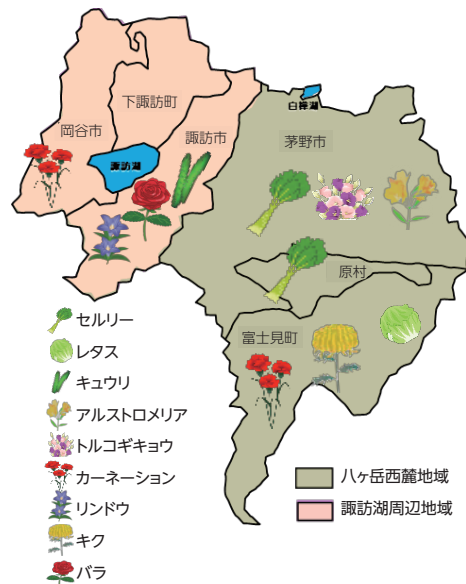
### 地域農業の特徴と農地の整備状況

#### ○地域農業の特徴

八ヶ岳西麓の標高約1,200m 地帯から諏訪湖周辺760m 地帯に広がる農地では、豊かな自然環境などを活かした多様な農業が展開され、その特徴は「八ヶ岳西麓」と「諏訪湖周辺」の2地域に大別されます。

「八ヶ岳西麓地域」は、夏期の冷涼な気象条件を活かした県下有数の野菜・花き産地で、特にセルリーは全国トップ、花きもキク、カーネーションを中心に、県内トップの生産額を占める大産地です。

「諏訪湖周辺地域」は、都市近郊の限られた農地を利用した稲作経営が多く、一部で果菜類（トマト、キュウリ）や花き（バラ、カーネーション）の施設化、団地化が進められています。



#### ○農地等の整備状況

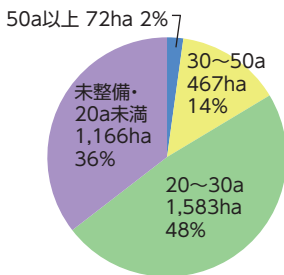
農地は、広域農道（八ヶ岳エコーライン）の整備に併せ、平成2年度以降、八ヶ岳西麓地域で飛躍的に整備が進んだため、整備率（20a以上）が、水田64.5%、畑地34.8%と県平均を上回る状況です。

また、滝之湯堰や大河原堰などの基幹的農業水利施設（用排水路）は、延長75.3kmのうち41.1kmが整備されています。しかし、未整備の区間も多く、引き続き、施設の整備を進めていく必要があります。

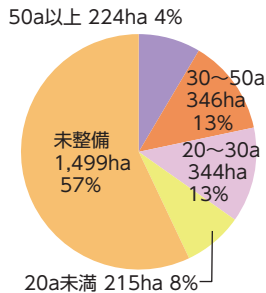
一方、令和2～3年度にかけ、ため池7か所に遠隔監視のための「ため池監視システム」が設置されるなど、農業農村整備事業でICTを活用する新しい取組も始まっています。

管内では、諏訪平地区で、今後、水田用水の自動給水化・遠隔操作化を図る予定です。

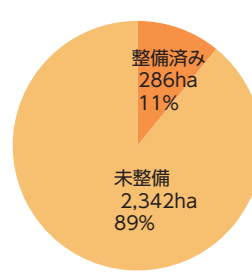
【水田整備】



【畑地整備】



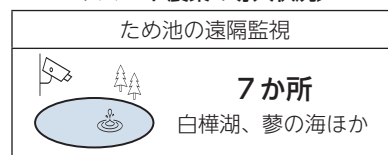
【畑かん整備】



【基幹的農業水利施設の一覧】

	用排水路 (km)	頭首工 (か所)	用排水機場 (か所)	水路橋 (か所)
延長・箇所	75	12	0	7
		水路トンネル (か所)	サイホン (か所)	ダム・ため池 (か所)
		6	2	8

【農業農村整備事業による ICT やスマート農業の導入状況】



地域の現状と課題

- ▷ 諏訪地域の偉人「坂本養川」の献策によって築造された多くの基幹的な用水路は、水路の大半が土水路のため漏水や護岸浸食が生じており、長寿命化計画に基づき、適切な対策を行う必要があります。
- ▷ 八ヶ岳西麓は、夏期の冷涼な気候を活かし、近年、基盤整備を契機に水田への高収益作物の導入が図られています。一方、諏訪湖周辺は、低湿地で畑作が不適であるため、水稲単作の農業が展開されています。今後、市町村が策定する「地域計画」に基づき営農計画を実現するため、生産基盤の再整備を進め、併せて担い手への農地集積・集約化を図る必要があります。
- ▷ 諏訪地域は、南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されており、防災重点農業用ため池の地震や豪雨への耐性評価による防災工事（廃止含む）など、地震や豪雨に強い農村づくりを早急に進める必要があります。
- ▷ 中山間地域では、農家の高齢化等によって農村が持つ多面的な機能が失われ、活力の低下もみられます。地域住民を主体とする農地や水路の維持保全活動や生産基盤の整備等、中山間地域における農業・農村環境の維持保全、活性化対策を進める必要があります。



基幹的な用水路（茅野市 滝之湯堰）



水田でのレタス栽培（富士見町）

施策の展開方向

I 次代を担う産地を支える基盤整備の推進

達成指標	現状（R3年度）	→	目標（R9年度）
○基幹的な農業用水利施設の整備延長	41.1km		42.9km
○担い手への農地集積・集約化を実現する基盤整備面積	37ha		73ha

整備方向

- ▷ 長寿命化計画（機能保全計画）に基づき、基幹的農業水利施設の整備を推進します。
- ▷ 八ヶ岳西麓に広がる農地では、水田への高収益作物の導入を可能にする除礫や湿害対策などの基盤整備や、既存の野菜産地を潤す畑地かんがい施設の更新を実施し、担い手への農地集積・集約化を促進します。
- ▷ 諏訪湖周辺に広がる水田地帯では、ほ場の大区画化、ICTを活用した自動給水栓の導入など、生産効率を高める基盤整備を実施し、担い手への農地集積・集約化を促進します。



大区画ほ場での稲刈り（諏訪市）



## II 安全安心で持続可能な農村の基盤づくり

達成指標	現状 (R3 年度)	→	目標 (R9 年度)
○防災重点農業用ため池の対策工事の完了箇所数	1 か所		6 か所

### 整備方向

- ▷ 災害から農村の暮らしを守るため、防災重点農業用ため池（16か所）の地震や豪雨の耐性評価に基づき、耐震補強や洪水吐き改良などの防災対策工事（廃止含む）を推進します。
- ▷ 中山間地域（指定棚田地域）の原村では、ワイン特区の認定を受け醸造用ぶどう栽培農地を増やすなど、生産基盤や集落環境基盤の整備による「雇用の創出」や「農業と観光の連携」を図り、農村への定住に向けた活性化対策を推進します。
- ▷ 2050年ゼロカーボンに向けた自然エネルギーの普及、及び農業水利施設の維持管理コストの低減を図るため、小水力発電施設の検討や導入を支援します。



防災重点農業用ため池（岡谷市 蟹沢下ため池）

## III 農的つながり人口の創出・拡大による農村づくり

達成指標	現状 (R3 年度)	→	目標 (R9 年度)
○地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	2,446ha		2,433ha

### 整備方向

- ▷ 農家の高齢化や後継者不足により、農業生産活動や、農地や水路の保全管理活動により守られている農業・農村の多面的機能が失われないよう、地域住民を主体とする農村の景観や機能等を維持する保全管理活動を支援します。
- ▷ 世界かんがい施設遺産に登録されている滝之湯堰・大河原堰をはじめとする歴史ある農業資産の魅力を発信し、農業用水利施設の歴史や工夫を広く地域住民などに広報する取組や観光との連携を図る取組を支援します。



取水口の維持活動（原村 中新田活動組織）

## TOPICS

## 新たに始まるスマート農業への取組（ICTを活用した自動給水栓の導入）

## ＜経営体育成基盤整備事業 諏訪平地区＞

諏訪平地区（諏訪市豊田）は、令和4年度から経営体育成基盤整備事業に着手し、ほ場の大区画化、暗渠排水の設置、用水路のパイプライン化など、耕作者が農業をしやすいように農地の再整備を進め、担い手への農地の集積・集約化を図っています。

特に、ICTを活用した自動給水栓の導入を図ることで、家に居ながら、遠隔操作（スマホ等）による田んぼの水管理を可能にし、水管理に係る労働時間の約8割を削減※1するなど、お米の生産コストを大きく削減し、この地域の農業競争力の強化を図っていきます。

※1：水管理に係る労働時間の削減数値は、農研機構が実施した「試験ほ場」と「対象ほ場」の比較結果によるものです。



整備前の諏訪平の農地（写真上部は諏訪湖）



ICTを活用した自動給水栓（イメージ）

## 基幹的な農業用水路（坂本養川堰）に係る地域学習の広がり

## ＜坂本養川堰研究会によるマップ制作と小学生等を対象にした学習会＞

坂本養川は、江戸時代中期から後期にかけて、水不足で苦しむ農家のために多くの堰を開削し、諏訪圏域の農業の発展に大きく寄与した先人です。坂本養川堰研究会※2では、養川が開削した15堰の工夫や歴史を通じて「地域の発展」や「地域を流れる堰は川ではなく先人が苦勞して開削し、200年以上も大切に管理され続けている農業用水路だということ」を多くの人に学んでもらえるよう「坂本養川堰マップ」を制作※3し、マップを活用した学習会を小学校や公民館等で開催しています。その学習会は、新聞報道されるなど、多くの方の好評を得ており、研究会では、講師（解説員）の増員を予定するなど、地域主動の積極的な活動（学習会）が継続されています。

※2：坂本養川堰研究会は、養川堰のある4市町村の公民館職員や民間有識者を会員として活動している。

※3：坂本養川堰マップは、令和3年度に長野県地域発元気づくり支援金や関係市町村の支援を活用し1万部を製作した。



坂本養川堰マップの表面（解説）と裏面（マップ）



小学生に堰を説明する解説員